

齋栄織物株式会社

超極細生糸を生んだ技術で 世界へ積極的に進出!



フェアリー・フェザーを手に齋藤氏

世界一薄い絹織物作りへの挑戦

世界一薄いシルク生地「フェアリー・フェザー」は、齋栄織物株式会社が誇る看板商品。髪の毛の太さの6分の1という超極細生糸で織り上げられている。薄くて軽く、柔らかいのが特徴だ。同社が超極細生糸の開発を始めたのは2008年頃。当時の状況を、代表取締役の齋

藤泰行氏は次のように振り返る。

「私たちは、ウェディングドレスの生地をアメリカに輸出していました。ところが、リーマンショックで輸出が激減。自社商品を見つめ直し、新たな挑戦を始めなければならなかったのです」。

新たな挑戦はふたつ。輸出の軸足をヨーロッパに移すことと、世界一薄い絹織物を作ること



■ 企業情報

社名 齋栄織物株式会社
 業種 繊維工業
 代表取締役 齋藤泰行氏
 所在地 福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字馬場6番地の1
 TEL.024-565-2331 FAX.024-565-2838
 HP.http://saiei-orimono.com

齋栄織物株式会社は1952年11月設立。「シルクで世界を変える」をキャッチフレーズに、世界一薄い絹織物のフェアリー・フェザーをはじめ、先染絹織物、絹織物と装裏地、寝装用絹布地、輸出羽二重、工業用資材、ストール・スカーフ等の企画・製造・販売を行っている。



だった。後者については試行錯誤の連続で、ようやく商品化への道筋が見えてきたときに、東日本大震災が発生する。齋栄織物の工場建屋と機械設備は大きなダメージを受けた。被害総額は約8,000万円に上ったという。

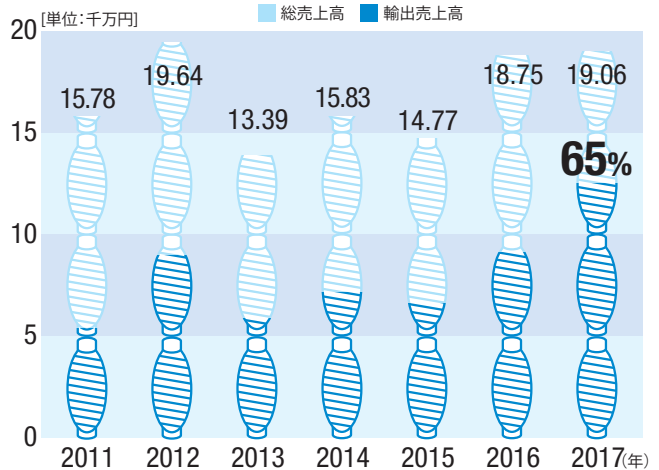
震災による建物と機械設備の被害について、同社は県内織物事業者と協同で経済産業省の「グループ補助金」を申請。受給した約6,000万円を修理費に充てることができた。

展示会への参加で風評被害を防止

その一方で同社を悩ませたのが、福島第一原子力発電所の事故の風評被害だった。そこで国内外の展示会に積極的に参加。多くのバイヤーに商品を手にとってもらい、安全性をアピールすることにした。同社にとってタイミングが良かったのは、震災後にフェアリー・フェザーが完成し、2012年ものづくり日本大賞の「内閣総理大臣賞」と「グッドデザイン賞」を受賞したことだ。

「震災後、福島県にはメディアの注目が集まっていたため、私どもの『世界一薄いシルク』も大きく取り上げられ、国内外から多くの引き合いが来ました」と齋藤氏。「その後に参加した

■ 総売上高に占める輸出の割合



展示会でも、フェアリー・フェザーを見せることで、技術力をアピールできました」と、その効果の大きさを齋藤氏は語る。

フェアリー・フェザーの効果もあって、和装裏地など国内需要が落ち込む中で、パラシュート用資材などの産業資材を含めて、海外の需要が伸び、今年度はついに、売上高の65%を海外需要が占めるに至った。顧客には海外の有名ブランドも名を連ねる。

「自社商品が高い評価を受け、海外販路が拡大したことは、従業員のモチベーションアップにもつながり、洗えるシルクの開発などへの挑戦も始まりました」と齋藤氏。海外への挑戦は、固定観念にとらわれず、自社商品を見つめ直すことから始まるというのが、体験に基づいた齋藤氏のアドバイスだ。



製品作りを支えるスタッフの確かな目



絹織物作りには高い技術と経験が要求される

今だから話せる
成功の舞台裏

被災地外からの進出事例

海外への挑戦事例

事業承継の成功事例

革新的スタートアップ事例